

平成19年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

市長討論会

「みなとを核とした地域の活性化について」



東恵子先生

こんにちは。本日の討論会のコーディネートをさせていただきます、東海大学の東恵子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

テーマは「みなとを核にした町づくり、市長の挑戦」ということで、ご市長お集まりで進めていくことになっております。各市長からは熱い思いをじっくりとお伺いしたいところですが、限られた時間でございます。大変恐縮でございますが、1つの発言に1分という短い時間で、皆様の心に響くお話を数多くしていただきたいとお伺いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では最初に、今国土交通省、全国の各地方整備局におきまして、みなとオアシスが登録認証されております取り組みが行われております。このみなとオアシスの認定経緯、そして現状を須野原局長からご説明いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

須野原北陸地方整備局長

はい、みなとまちづくりということで、いろいろな制度我々も取り組みをしていますけれども、その1つとして、みなとオアシスという取り組みがございます。これ始まったのは、もともとは瀬戸内海の港で始まりまして、私もそのとき広島県に出向していましたので、その後全国的にも始ま

っていますし、私たちの管内でも今年から取り組んで、今年は5つの港、今日いらっしゃっています港も既に入っていますけれども、5つの港で始まっています。

これは1つの取り組みでございまして、地域の町づくりを地元と一緒に考えて、やっぱり市民と港は、先ほどの柳原先生のお話にございましたように、いろいろなものをもって近くしようと。いろんな地域のもっているそれぞれの個性がございますから、それをうまくオアシスとしてやるということ。場所によってはそれと道の駅と一緒にやっている所もございまして、そういう形の取り組みでございまして。

ですからいろいろな取り組みの中の1つとしてありますから、これだけじゃございませんので、こういうものをうまく生かしていただいて、みなとまちづくりの1つの起爆剤にいただければということから始めたものでございます。

東恵子先生

はい、ありがとうございます。そちらスライドもう出ておりますので、そういった画面を見ながら聞いていただければと思います。大変わかりやすくまとめていただきました。ありがとうございます。

それではトップバッターに、新潟市長に、この3月にこのオアシスの登録を受けたというお話を伺っております。市ではこのオアシスを中心にしたにぎわい空間をどう作っていくか、市長の思いを聞かせていただければと思っております。

篠田新潟市長

はい。新潟港千年以上の歴史をもつみなとまちということですが、近年はあまりみなとまちの雰囲気がないというようなことを言われております。これは1つには、新潟東港のほうにどんどんコンテナ機能移りまして、今はそのおかげで全国のコンテナの取り扱いトップ10に2005年から入らせていただいたという面で、あっちのほうは相当繁盛しているのですが、新潟西港、町中のほうが若干みなとまちの雰囲気が弱いと。そういう中で今回はみなとオアシス、この指定を新潟港受けさせていただいたと。信濃川の左岸のほうでみなとぴあ、歴史博物館、それから左岸緑地、そして右岸のほうでは換気塔ですね、山の下タワー、こういうものを中心に、これから新潟みなとまちを更に売り出していきたい。

そして万代島に朱鷺メッセという大変高いホテルが、高いと言っても料金が低いじゃないですが、背の高いホテルが建設をいただいたということで、今まで新潟市は本当に平らな町ですので、港の見える丘とかそういうものがなかったですけども、今度は朱鷺メッセの31階から見ていただくと、もう新潟というのが信濃川という母なる川の下で育てられたみなとまちということが一目瞭然になりました。

そういうことなど含めて、これからみなとまち新潟というものを我々全面的に売り出していきたいというふうに思っております。

東恵子先生

ありがとうございます。1分でありがとうございます。恐れ入ります。多少はですが、大幅には、大勢おりますので、よろしく願いいたします。

では同様の質問を、みなとまちオアシス海王丸パーク、射水市長お願いしたいと思います。

分家射水市長

はい、こんにちは。1分ですが、先ほど柳原先生の言われた海王丸を誘致いたしました。私の所は大阪市と争いまして、2年半ずつ折半ということだったのですが、大きな大阪市さんが我が方に譲っていただきました。今、合併いたしまして射水市となっていますが、射水は既に万葉集のときからうたわれておりまして、まもなく1,300年を迎える古い町でございます。

なお、私どもとしては、この海王丸パークをどうやって生かしていくかということで、現在、先ほどおっしゃったように帆船のボランティアの方々と一緒に、この海たくさんの人に親んでもらうように、フリマでありますとか、あるいはいろいろなイベント、カニカニ祭りですとか、私の所では有名なのは、小学6年生に給食にカニを出したということで有名になっておりますが、そういったことを通じておいしい魚を食べてもらったりすることに一生懸命心がけております。

今後は仮称新湊大橋の建設に向けて、一生懸命港の整備をしているところでございます。1分以内でしょうか。

東恵子先生

ありがとうございます、ご協力。次に敦賀市長、よろしくお願ひしたいと思います。

河瀬敦賀市長

敦賀もおかげさまで大変古い港で、博多の次に国際的な開港をしたというふうに言われておりますし、いろいろな大陸とのつながりが深くございます。

そこで、ちょうど今から50年ほどになるでしょうか、60年以上になりますね、杉原千畝さんという外交官がユダヤの難民を多く救って、そしてその皆さん方がシベリヤ鉄道を通じて敦賀に入ったわけでございます。また、かつてはポーランドの難民もロシアのほうから逃れてきた方も、ちょうど敦賀の港に入ったということで、当時そういう皆さん方をしっかりとおもてなしをしたという、そういう歴史がございます。

そういう意味で私どもは今人道の港ということに位置付けまして、今の港の開発、旧港の開発を行っておりますし、快速電車が京都大阪のほうから昨年入ってまいりました。そういう皆さん方の受け皿として、やはり観光の拠点として今みなとオアシスを十分に活用させていただいて、がんばっていきたくて思っております。指定いただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

東恵子先生

ありがとうございます。それでは東北地域でもこの取り組みが行われていると伺っております。平成17年、もう2年前になります。酒田市の市長様、この取り組みについて、今後の方針も含めまして語っていただければと思います。

阿部酒田市長

はい。東北から参加しました酒田市の阿部です。酒田港は北前船でにぎわっていた港だったのですが、物流が鉄道輸送に明治以降少し変わったとか、また港のほうは近代的な、北港といって隣接地に

大きな港を、掘込港を造ったものですから、旧港地区というか本港地区と言っていますが、それが少しさびれていた時代が長く続きました。

しかし北前船の寄港地としての歴史と文化の中心地でありますので、国、国土交通省、そして山形県という所の協力を得ながら、本港地区の再開発をやりました。さまざまなミニパークとかそういうものも造りましたけれども、もう1つ宣伝させていただきたいのが、市のほうで整備をさせていただいた海鮮市場という、少し海を見ながら海産物を買ったり、食べたりという地域でありました。今のスライドの隣の奥のほうに見えるのが県の海洋センターでありますけれども、海洋センターと言っても、あまり県の人来ていないから言うと、言ってもいいのかなと思いますが、年間5,000人ぐらしか一番ひどいときは入らなかったそうですが、この海鮮市場がオープンしたならば一気に5,000人は1か月で突破をして、今年間70万人ぐらいこの地域を訪れるようになっていきます。その後みなとオアシスの指定も受けました。

これから北前文化というものを強調しながら、新しさと古さが調和したみなとまち、それをみなとオアシスなどで、国土交通省さんからもお力をお借りしながら作っていききたいなというふうに思います。

東北のんびりしているものですから、1分ちょっと長かったかもしれませんが、以上で報告を終わります。

東恵子先生

ありがとうございます。それでは、これからみなとオアシスに予定したいという稚内市長様いらっしゃっております。どのようなお考えをおもちでしょうか。ぜひお聞かせ願えたらと思っております。よろしく申し上げます。

横田稚内市長

はい。稚内市長の横田と申します。皆さんもご承知かもしれませんが、稚内市は日本の最北端にありまして、私も日本のでっぺんというふうに称しているのですが、北にはロシア・サハリン州があって、国境の町でもあります。三方海に囲まれておりまして、やっぱり何と言っても海が我々にとって大事な資産と言ってもいいだろうと思っております。

ちょっと報告をさせていただきますけれども、稚内がいわゆる倭人がおいでになったのが1600年ぐらいですから、たかだか400年ぐらいの歴史しかございません。その中で、4万1,000人ぐらいの人口ですが、最も多いのが福井、石川、富山、新潟、この辺りの方々が、実はこの辺りから、どういのでしょうか、逃げていったのか、あるいは野心をもって出かけたのかわかりませんが、その方々の子孫というか多いです。そのことをまずご報告をさせていただきますが、これもやっぱり今酒田の市長さんからお話ありましたが、北前船の影響が大きかったのだと思うのです。これはやっぱり港がそこそこあって北前船で交易がされたと。それに乗じてこちらからたくさんの方々が北海道に大志を抱いて渡ってきたということなのだと思うのです。

従って、歴史も地勢的にも地理的にも、港抜きにして私たちの町づくりは考えられないというふうに思っております。これからみなとオアシス、北海道は少し出遅れておりまして、出遅れていたからよかったのですが、多分私どもが北海道のナンバーワン、第1号になるだろうと思っております。今年度中にその登録を受けるように今準備を進めさせていただいて、いっそうにぎわいのある町づくり

をしていきたいなというふうに思っております。

東恵子先生

ありがとうございました。北海道でナンバーワンになるみなとオアシスを予定している稚内市長様のお話でした。この環日本海ネットワークで歴史的な港文化、それから交流を生んできたものでございます。人のにぎわいも、港を核にしてこの地域とともに港の発展を今後願うものですが、ここで新潟大学の岡崎先生に、都市景観のご専門と伺っておりますが、このにぎわい空間づくり、今ご市長様のお話がありました。そういった中から景観的に新しいにぎわい空間づくりとしてアドバイスがございましたら、お願いいたしたいと思えます。

岡崎篤行先生

新潟大学の岡崎と申します。私は都市計画が専門なので港の専門ではないですけれども、みなとまちについては少しいろいろ研究上も思い入れがありまして、そんな観点からちょっとアドバイスというほどのものではありませんけれども、少しお話しさせていただきたいと思えますけれども、1分でですね。

みなとまちにもいろいろあるということをまず、皆さんはみなとまちの方なのでご存じだとは思いますが、いろいろあるわけですね。一言でみなとまちと言っても、例えばいわゆる天然の良港と言われる浦賀みたいなあいう入り江のような港で、瀬戸内海なんか主にもそうですけど、そういうのは大体中世とかからずっとあるわけですね。

それに対して、例えば函館とか横浜とか神戸とかは近代にチェックをしてつくられたみなとまちであり、ただそういうのは割とみんなみなとまちって印象が強いですが、さっき篠田市長さんがおっしゃったように、新潟は何でじゃあみなとまちってイメージが弱いのかということを考えるときに、1つには、今の2つのタイプじゃないですね、新潟は。新潟は江戸時代の初期に城下町長岡の外港として新しく建設されたみなとまちで、このタイプは日本海側に多いですね。酒田も庄内藩のそうですし、多分青森も弘前藩のそういう位置付けですね。

つまりそれぞれの港の個性を考えるときに、新潟のことで言うと、もう1つの特徴は川港ということですね。酒田もですけど、川港では多分新潟は日本一ですね。だからみなとまちとして日本一とは言えなくても、少なくとも多分日本で最大の川港であるというのは言えるのではないかなという気がするのですが、そんなことをいろいろ考えていくと、みなとまちも奥深いと言いますか、おもしろいなと思えます。とりあえず最初はそんなところで。

東恵子先生

ありがとうございました。最初1分など大変失礼なことを申し上げまして、すごく特急に走って、大変時間通りに進んでいるのですが、ここから少しゆっくりさせていただきたいと思えます。せっかく五市町村の交流ネットワーク、なかなか五市町村がそろってこうお話しし合える機会もないかと思えます。また新潟におきまして、各地域の、日本海側の港を知ることもないかと思えますので、ぜひここからは今のみなとオアシスプラス港と町、そういったことを考えながら、にぎわいと言うんでしょうか、人が集まるとかにぎわいとか、そういった課題に対して今後具体的な取り組みとか、それから戦略的にどう考えているかということをお話しいただければというふうに思っております。

これからは稚内市長さんからお願いしたいと思います。どうぞもう少し、3分ぐらいで。

河瀬敦賀市長

すみません、ものすごく聞きにくいものですから、もうちょっと音量を上げてもらえませんか。客席はよく聞こえるのですが、こっちモニターがないものですから。横の話があまり聞こえないので、特に先生、声が優しくて。

東恵子先生

それではもう少し大きな声でお話をさせていただきます。失礼しました。

横田稚内市長

それでは今私もお話し申し上げましたように、三方が私ども海に囲まれて、主力産業はやっぱり漁業だったのですね。ただ残念なことに、多くは近海漁業、底引き網漁業という主力産業でございました。それがロシア国境との200海里専管水域の設定後、どんどんどんどん衰退してまいりまして、ピークで64隻ほどの125トンクラスの漁船が今8隻ということで、水揚げも大きく落ちてしまいました。かつてはまさにみなとまちという、底引き漁業が水揚げをする際には、かもめが何百羽、何万羽ですかね、飛び交うぐらい、かもめがにぎやかになっても困るんですが、大変な水揚げのにぎわいをもっていました。でもそれがそういった衰退をすることによって徐々ににぎわいを失ってきてしまっているところであります。

ただ沿岸が非常に元気になってまいりまして、ホタテですとかあるいは最近ハマコですとか、そういうものが大変好調に好漁に推移をしています。こういったことを起爆剤にしながら元気を取り戻したいと思うのですが、でもやっぱり港のにぎわいというものを私たちとしては取り戻したいなというふうに思っています。そのために、先ほどロビーのほうでありました私ども築70年たっているドーム型の防波堤がございます。北タクトウ防波堤ドームというふうに呼んでいますけれども、ちょうどヨーロッパ風の建物、構築物ですけども、これを非常に景観がいいと、世界的にも珍しいというようなことがあって、この周辺を再開発をして、緑地化を図りながら住んでいる市民の方々、あるいは訪ねていただく観光客の方々にさまざまなイベントを提供してにぎわいを取り戻していこうと、そういうようなことで今計画を立てているところです。

合わせて、全国で初めてだったんですが、みなと振興交付金という制度ができて、この第1号を使わせていただいて、利尻・礼文両島、あるいは隣のロシア・サハリン州と行き来をしているフェリーターミナルを移築をしようということで、現在利尻・礼文への離島ターミナル、それからロシア・サハリンへの国際ターミナルの建築に入っていますけれども、こういったハード、それからさまざまなソフト事業、イベントを検討しながら、みなとオアシスに登録をして、全国のみなとオアシスと提携して連携させていただきながらにぎわいを取り戻していこうというのが、今の私たちのねらいです。

東恵子先生

ありがとうございます。それでは酒田市長様お願いいたします。

阿部酒田市長

私のほうから2つちょっと申し上げたいですが、1つは私たち海に住む者は海とか港いうのは全然

珍しくもないですが、内陸に住む人たちにとっては大変な憧れなのだよということを絶対に忘れちゃいけないなど。もしくは内陸に住む人たちに海のよさ・港のよさということをアピールするような環境、施設も含めてですが、整備をするのも、みなとまちの責務かなというふうに思っているのです。

というのは、さっきの海鮮市場というのがありましたけれども、あれも内陸地方からも相当来て、酒田の魚おいしいと言って食べてくれています。私たち毎日食べていますからおいしいかなとは思っていますけど、そんなびっくりするほど、列を作って並んでまで食べようとは思わないですが、並んでまで食べている人もいます。

また、それからこの間国土交通省さんのだいぶお力をいただいて、酒田の港湾事務所のほうですが、ビーチバレーの全国的な選手もお呼びして、何て言いましたっけ、女性ですごく有名な人がいるんですが、浅尾美和さんは来られなかったですが、でもその全国的な朝日健太郎選手だったかな、忘れましたが、来られてやったのですが、すごい「海岸の楽しみ方ってこういうことがあるのだな」と案外地元が知らないというか、こんなのいつでも行けるからなんて言っているのですけれどもね。

でもそういう文化を発信するのは、実は内陸に住む人たちに対する私たちの責任でもないかなんていうことを思っております。だからこういう日本海側の港のネットワークの中で、さまざまな情報を今日も私自身も仕入れていって、そういう情報を全国に発信するというのが大げさだとすれば、県内各地に発信していきたいなど。それが町のにぎわいにつながっていくだろうなということをおもいます。

ちょっともう1分ぐらいいただきたいのですが。もう1つは、この間佐渡、それから粟島の方をお迎えして、3島サミットみたいな、3つの島のサミット、酒田は島ではないですが、酒田にも離島で飛島というのがあります、その3島交流会をやったのですが、それはなぜかと言うと、飛島萱草というお花、ご存じでしょうか。飛島という離島の名前がついた萱草種、黄色いユリの大きいような感じのやつです。それがご縁で、佐渡なんかにも大群生地がある、粟島も同じということですが、実際その維持管理とか悩んですごく同じなのです、共通する悩みが。

それから漂着ごみ、NPOとか環境省から少し調査費などもいただいて少し勉強していますが、そういう悩みも同じ。私たちは今東北地方整備局の管内の港になっていますが、一方で稚内から唐津ですか、今は唐津までがメンバーでしょうか、日本海側の港の悩みとか、今離島の例を申し上げましたけれども、悩みとかというのは共通しているし、課題も共通しているのではないかなと思っているので、そこでこの、せっかく会議に出てきたので言うのですが、このにぎわい交流海道ネットワークというのは意味のある会ではないかと、一応ゴマすって終わります。

東恵子先生

それではそれを受けて、新潟市長はいかがでしょう。お願いいたします。

篠田新潟市長

先ほど岡崎先生に教えていただいたので、これからは日本最大の川港の新潟ですといつも言おうと思っていますが、新潟というのは、日本最大はありがたいですけども、江戸時代まではこの日本の長江信濃川と、それから日本最大級の水量をもつ阿賀野川、これが一緒になって港になっていたのですよね。今の通船川というのが阿賀野川の本流だったということで、そのときは阿賀野川というの

は水流豊富、そして信濃川これは土砂分が非常に多いと、それが合わさっていたんで水深が維持されていたわけですが、阿賀野川が松ヶ崎の分水路掘削によって、本流が移ってしまったと。その後は土砂がどんどん信濃川河口部埋めていって、港の形が年々変わってきました。

だから酒田行くと日和山という所から、実に今も日和山なのですよね、あそこは。ところが新潟市の日和山をご覧になるとおわかりの通り、日和山から海も見えないし川も見えないという、珍しい日和山になってしまって、それだけものすごい土砂が信濃川今の左岸のほう、ここを全部新しい土砂によって新しい市街地ができたという、大変な水と土とのたたかひをやってきたみなとまちです。

この水と土と猛烈にたたかったことによって、我々21世紀、この水と土と共生できる、そういう環境を築いてきたと。これをもう少ししっかりと認識をして、そして全国的にアピールしていったほうがいいんじゃないかというふうに今考えています。水と土の王国に、21世紀の新しい文化の風が渡っているのだと、これが私は新潟のイメージかなというふうに思っています。

それをどこで見てもらうかということですが、1つは万代島。皆さんご存じの、万代島のところに朱鷺メッセができましたけれども、すごい施設ですが、イベントがないともう閑散としているのですよね。怖いぐらいの寂しさという感じもあって。ここをもう少し日常的に人のにぎわいの場にしたいと。そのためには対岸の東港線の近く、信濃川の右岸の所ですけれども、そこに今まで卸売りの中卸しが張り付いていました。これが総合卸売りセンターが大江山にできましたので、すべて移転をしたと。ここが今空いております。この空いている所ににぎわい空間を創出しようということ、大市民市場をちょっとやってみようかなというふうに思っています。2、3年はプレハブレベルのトライアル的な形のにぎわい空間を作ってみて、そして3、4年後には本格的なプロポーザルで、この地域をにぎわい空間にしたいというふうに思っています。そうすると対岸と万代島、ここはかなり人が行き来するのではないかなということ、これがやっぱり新潟の最大のポイントだろうというふうに思っています。

そしてあとは、日本海側の港いろいろな課題があるわけですが、今10年前とまったく違った日本海物流が、先ほどのごあいさつで申し上げました、日本海時代が物流で始まっていますよということを、全国にもっと知らせる必要があるということで、この間射水の分家市長さんと私一緒に国土交通省に行って、日本海物流大変な時代になっているんだから、日本海側の港をもっと整備してくださいということで提案をしてきました。そしたら国土交通省の方が後で、あんたら富山伏木と新潟ってライバルじゃなかったの、仲悪いのではないのなんて言うておりましたが、「いや、そんなことはありません」と。我々は日本海物流ということのアピールするときに、スクラムを組んでやるべきだと思っているから、これからも分家さんとちょくちょくおじゃまするし、またこういうネットワークを使ってもっと幅広く私は日本海物流大変な時代に入っているのだから、これに対応する整備をしないと東アジアの時代に日本は乗り遅れるよということを、日本海側の港、そして日本海側の地域がもっともっと声を上げるべきじゃないかなというふうに思っていますので、分家さん、また仲良くお願いしますね。

東恵子先生

それでは仲良しコールがあったところで、射水市長の分家市長お願いします。

分家射水市長

はい、どうもありがとうございます。先ほど言うておりましたが、今確かに物流のことでコンテナの量も増えておまして、今、バース等を拡張しております。ただ私の所の地形は、ちょうど富山県の中央にありまして、掘り込みの新しい港湾ですが、歴史的には北前船のもっと以前から放生津港という自然の良港がありまして、北海道からのいろいろな昆布や何かを福井のほうまでずっと運んでいたり、それから米を大阪へ運ぶための港であったりしたわけで、そういった意味ではまったく皆さんと同じような交流が現在もそこで続いているというふうに思っています。

ただ新しい動きとしては、伏木富山港の中のちょうど真ん中にある富山新港なものですから、物流、それから人の流れをきちんとするために、先ほど言いました仮称新湊大橋でございますが、これが20年代の前半、24年ぐらいには完成するだろうと言われておまして、この1日も早い完成を目指して、今現在現れておりますようないろいろな夢を市民の皆さんと一緒に描いているところでございます。

幸いにして、この海王丸パークを中心とした私の所の港には、年間80万人のお客さんがお見えになります。しかしこの方々を、ただ単にトイレ休憩や食事だけに来てもらっても意味がありませんので、何とか私の所の町を生かした誘客を図りたいということで、私の所にはかつて自然の良港であった放生津湯の所を東西に走っている内川という川があります。この川には、先ほど柳原先生の話聞いてまったく私も同感ですが、私の所は漁船が出てずら一と両方につながった、現在出ておりますがこういった川です。これをぜひ生かしていきたいと思っています。小樽は人工的に造られた運河であります。私の所はまったく自然を生かした、そういった運河にも似た川であります。ですからこれは、私は日本一だと思っていますし、このことは新しいものに作るのではなくて生活のにおいがする、いわゆる漁村の、あるいはみなとまちのかつてのみなとまちのにおいのする町づくりをしていきたいというふうに思って、民間の方々の認可を今3件ほど市と契約いたしまして、NPO法人が海辺の所へ1人1泊1,000円で泊まれるようにしています。たくさんの方に利用していただいております。こういった所で、実際の漁師町と申しましょうか、そういった雰囲気味わっていただける、そういったことをこれからも整備を図ってまいりたいと思いますし、その中心として川の駅というものを整備してまいりたいというふうに考えております。私もそうですが、大体祭りの好きな人種が多いもので、私の所には祭りがたくさんあるものですから、その祭りやそういう食と、それとそういう昔ながらの景色、こういうものを組み合わせた町づくりを、みなとづくりから始まる町づくりをぜひこれからも図っていきたいというふうに今考えています。以上です。

東恵子先生

ありがとうございます。それでは今内川が北陸のベニス、日本のベニスになるかもしれないという話いただいたわけですがけれども、敦賀市長様お願いします。

河瀬敦賀市長

やっぱり女性というのはたいがいい男のほうに目がいくものですから、つつい、私の体が見えないわけがないですけど。

東恵子先生

ちょっと見えなかったもので、ごめんなさい。失礼しました。

河瀬敦賀市長

私どものにぎわいの港というのは非常に大事でありますし、かつては港というのはまず汚い所、危ない所、私どもの小さいときには港行って遊んだらあかんというふうに言われていたのですね。そういう時代がありました。しかし今本当に港を中心として、やはり人が集ってもらうことがにぎわいがありますので、私どももいろいろなイベントを旧港のほうで行って、ともかくやはりまず市民から「港に行こう」というにぎわいを作ることが必要だということで、いろいろなイベントにも取り組んでおりますし、その輪を広げて、先ほど言いました直流化を行いましたので、港にあまり縁のない地域の皆さん方から遊びにきてもらう、そのようなにぎわいづくりに取り組んでおるところでございます。またいろいろな交流では、先ほどからお話出ておりますけど、北前船等々でのつながり、だから前の稚内市長さんは敦賀一夫さんという方でありまして、敦賀という名前、実は敦賀市には1人もその姓をもった方はいらっしゃいません。先ほどの北海道でありましたが、いろいろな地域に敦賀屋ということでいろいろな商売をされている方がそういう名前で店を出しておったという歴史等もございますので、そういうものを含めてこれからどんどんどんどんお互いの交流を深めていきたいなというふうに思っているところでございます。

そこで、話は少し変わるんですけども、やはり私どもの地域、ご承知の通り今環境問題も含めていろいろなごみが実は流れてきております。皆さんも記憶にあると存じますけれども、ナホトカ号、実はナホトカ市というのは敦賀市の姉妹都市ですけれども、ネーミングの悪いナホトカ号というのがひっくり返りまして、重油がずっと流れ着いたことがございました。8年前だったというふうに思います。そのときに、三国町のほうにちょうど船首がいつもニュースに出ていたものですから、今は坂井市になりましたが、実は敦賀市が一番実はドラム缶に油集めたのです。ボランティアが来ていただいたり、いろいろな皆さんに来ていただいたりして、砂浜がちょうどチョコレートのサンドイッチ状態でした。行きますともう油の層、砂があつてまた油の層というのがありまして、本当に私どもの港、海岸どうなるのかなということを考えましたし、そのときからもそうでしたがハングルの文字であったり中国の文字であったり、いろいろな漂着物、恐らくそれぞれの皆さん方も悩んでおられるんじゃないかなというふうに思っております、今ちょうど調査にかかったということも伺っておりますけれども、これはやはり日本のごみじゃないごみの場合、やはり国際的な動きをしませんとこれは恐らくなくなりません。

またいろいろな国の船舶も日本海たくさん通っておりますけれど、船からの投棄みたいなものもひよっとするとある国によってはやっておるところがあるのではないかという懸念もございますので、そういうものをしっかりとこれから取り組んで、やはりきれいな海、港、こういうものをしっかり守っていききたい。そのような運動も私どもしていったらいいじゃないかなというふうに思いますので、来年は稚内で会議もあるようでございますし、そういうのを受けていろいろな提案をしていきたいなと思っております。以上です。

東恵子先生

ありがとうございました。敦賀市長様から、今環境、港における海岸漂流物、ごみの清掃と分析な

どの、いろいろ今スライドを見せていただきましたでも、各港、この漂流ごみの問題が大変大きな課題になっているようでございます。今、次回開催地であります稚内市長さん、全国に向けてメッセージ性のある取り組みとしてこのごみの問題、漂流物の問題について、敦賀市長からのお話がありましたけれども、いかがでしょうか。

横田稚内市長

北海道もやっぱり皆さん方と同じように苦しんでいます。私どもも日本海側に海岸線が長くもっていますので、ここにはやはり同じような漂流物が相当堆積をしますと言いますか、流れ着いて漂着しています。それを沿岸の小中学生の子どもたちやあるいは地域の人たちが、1年に1回ないし2回清掃していただいて、きれいさを保とうとしているんですけども、もう流れ着く量にとっても追いつかないというのが実態ですし、それをすべてなくしてしまおうと、整理しようとなると、我々の今の厳しい財政状況の中ではとてもじゃないけど太刀打ちできないということです。こういった共通の悩みを皆さんの力で一緒になって解決しようということについては、このネットワークの大事な役割の1つだと思いますし、これは来年のまた大きな課題として我々も取り上げていかなきゃいけないと思います。一緒になってがんばりましょう。よろしくお願いします。

東恵子先生

はい。トップの方がお集まりですと大変結論が早く、次回開催のテーマが決まったようでございます。この解決、本当に日本は四方を海に囲まれた海洋国です。そういった中では全国各地域にこの課題は多くあります。そういった中では、この環日本海のネットワーク発信ということで、来年のテーマにしていただければというふうに思っている次第です。

さて新潟大学の岡崎先生から、この漂流物問題について何かご提案、アドバイスがあればぜひお願いしたいと思います。

岡崎篤行先生

私この問題まったくよく知らないので何も言えないですけども、でも新潟で見ていると、各地どこでもそうだと思いますけれども、市民のNPOとか活動してらっしゃいますし、国際的な問題もあるでしょうし、各自治体各市民いろいろな人たちが連携して地道にやっていくしかないのかなと思います。

1つ私がかかわっているのが、新潟海岸情報ステーションという、インターネット上のホームページ、ウェブサイトがありまして、そこは結局こういうことは行政だけでなかなか全部カバーするのは難しいので、例えば市民の人が海岸でそういう漂着物とかを見つけたら、携帯電話から写真とメールでホームページに送って、事務局で一応精査してそれをホームページに載せるという、そんな取り組みを全国のモデル的な第1号か何かで今やっているのですね。ですから例えばそういう取り組みとか、そういうことをいろいろ進めていったらいいじゃないかなと思います。

東恵子先生

ありがとうございます。他に市長様いかがでしょうか。はい、射水市市長様お願いします。

分家射水市長

私の所も同じような悩みがあります。実際に、これは私どもの海岸になると思いますが、今どういう取り組みをしているかと言うと、例えば今年の場合は海に面している富山県9つの市と町が、7月の第一週の日曜日ということの基本にしてやったのですけれども、もちろん今のところはまだ統一が取れておりませんが、地域の自治会、それからボランティア、それからいろんな企業の方にも出ていただきまして、これはそのときの様子ですが、ごみの一斉の清掃作業に取り組みました。

やはり海岸というのは知らず知らずのうちにみんな汚しているわけで、私どもの場合はちょうど富山湾の中心部にあるものですから、外国からの漂着物というよりも、国内の特に両方の床川と神通川の河川の両方に囲まれているものですから、台風ですとか集中豪雨の後なんかは、やっぱり上流からの漂着物が圧倒的に多いわけです。

そういった意味では実は私どもの漁港、新湊漁港は、毎年山へ植林に行っています。海の恵みというのは山から頂くということ、我々いつもお話をしております。富山湾の神秘というのをこの間もNHKのほうで取り上げていただいて見たのですけれども、やはりおいしい魚というものはすばらしい山の伏流水によって海の中からわいて出る、そういったものによってなっているということがよくわかりましたし、そのことを特に次代の子どもたちや、我々は毎日うまいものを採って当たり前だと思っておりますけれど、本当においしいものを頂いているということに感謝する意味でも、海をきれいにするということをまず海岸のほうでやって、これはやっぱり山のほうの人たちにもそのことをよく理解していただいて一緒にやっていかないと、この環境の問題は解決しないのではないかとということで、現在県のほうの市長会のほうで私のほうの提案で、来年にはとりあえず県内の海岸と同じ一斉に、同じ日にやろうということ、これをこれから提案していこうと思っております。

できますれば日本海みんな一緒ですから日本海側全部でやればかなりインパクトのあるアピールになるのではないかとこのふうにも思っておりますが、いかがでしょうか。

東恵子先生

篠田新潟市長をお願いします。

篠田新潟市長

分家市長さんの提案大賛成ということで、どうせ皆さんそれぞれの地域でかなりクリーン作戦やっているわけですから、どうせなら一緒の日に力を合わせてやるということが、アピールの部分も含めて非常にいいと思いますので、これはぜひ次期に向けて検討のほうをして、できれば次期の大会でこれからはこういうふうにするよということを決めていただければすばらしいんじゃないかなと。

それからもう1つ、やっぱり日本海というのはいくつかの特徴ありますけれど、日本海の宿命的なこととして非常に閉鎖性が強い海域であって、そしてやっぱり朝鮮半島あるいは対岸のほうから日本列島に向けていろんなものが流れてくるという、こういう特性になっているわけですね。そういうものをやっぱり沿岸の、対岸の方にも朝鮮半島の方にも知っていただくことが必要んじゃないかと。新潟市には酸性雨を、これをモニタリングする国際的なネットワークございます。国際機関なわけですけど、いきなり国際機関というわけにいかないかもしれませんが、まず日本海側にどんなごみが漂着してどのぐらいの量があるものかということ、まずは日本がしっかり把握をして、そしてこのごみの中のかなりの部分はあるんたたちが流しているんだわねということ、これをまず知ってもらおう。そしてじ

やあそのネットワーク、対岸まで広げてどうすればごみが出ないようにできるのか。そして日本海をいつまでもきれいな、まさに我々の宝の海ですから、その宝の海のままにしていけるのか、それを国際的に考える、今6か国協議とかやっておりますけれども、まず基本的には4か国協議か5か国協議みたいな形で、ここに国際的なネットワークを作る、そのことを目指して日本自体がまず大きな一歩を踏み出すべきではないかなというふうに思っておりますので、これは我々もおおいに声を上げて、環境省などに働きかけていきたいというふうに思います。

東恵子先生

他には市長様いかがでしょうか。

阿部酒田市長

はい、反論するわけではありません、まったくその通りだと思います。ただ今篠田市長の話その通りですが、実際私たちが漂流ごみ、漂着ごみの調査などをしますと、例えば医療廃棄物で確かにハングル文字が書いてあるもの、意図してということはないんでしょうけど事故なんだと信じたいんですが、大量に打ち寄せられるなんていうことがもちろんあります。

ただ私たちは、決してそれは国際的な議論もしなきゃならないんですが、もう1つしっかり考えなきゃならないのは、我が国国内から出たもののほうが多いんです、実は。だからこれはやっぱり少し考えていかなきゃならないだろうと思います。ある所で私たち、逆に言うと信濃川で出たのが私たちのほうに来る可能性だってあるし、またその逆もあるかもしれない。雄物川のやつがこっちに来たり、最上川のものが行ったりとかということもあると思います。

あるときに、山形市というのは内陸のほうにあるのですが、山のほうにあるのですが、その子どもたちが海のごみを拾いにきたという試みがあって、それ涙が出るほどうれしかったですね。私たち海沿いに住む者ももちろん全然投棄してないとは言いませんが、内陸に住む人たちも海岸をきれいにする責任自分たちにもあるのねというようなことを、実は気づいていたことが大事だろうと思いました。

それはどうしなきゃならないかというのは、確かに国際会議とかそういう大きなことも大事ですが、まず海に内陸の人たちも含めて来てもらって、海岸を知ってもらって、汚いだ、きれいだの現状を見てもらってやるということが、やらなければ、海の人だけがなんぼ力んでも解決しないじゃないかなというようなことを思っていることも事実であります。

ただいずれにしても、山形県の飛島という離島が、人口が非常に少なくなっている。小さな島ですけども、また高齢化が進んでいるということで、漂着ごみへの対応が島民だけではできないという状況が何年も前から続いていて、ボランティアを募ってごみ処理、ごみバスターみたいなことを何年来やっています、ボランティアを中心に。そのことが評価されてということもあると思いますが、環境省のモデル事業ですね、漂着ごみにかかる国内削減方策モデル調査事業と、その採択もいただいて、今飛島などを中心に勉強させてもらっていますから。これ2か年事業ですけども、来年稚内辺りで途中経過を発表できるかもしれませんから、そのときにはまたタッグを組んでやっていかなきゃならないのかなと。

要は言いたいことは、もう1回くどいようですが、もちろん国際的な取り組みも必要ですが、実は、確かにハングル文字とか中国語のやつというのは目立つのですよね。目立つけれども実際量をカウン

トしてみたら国内から出ているものが多いのだよと。よそを悪者にする前に、自分たちも反省すべきことあるのだよということを、一言申し上げたかったので、ちょっと発言をさせていただきました。

東恵子先生

ありがとうございます。今この海岸や港、海辺に寄せる漂着ごみは年間15万トンと言われているそうです。そういった中で、今日ここの市長様お集まりになられて、それぞれの海岸で、港で、ごみに対する対策、市民と取り組んでいる事例、それと山の川上の子たちが、内陸部の人たちによる暮らしのごみの対応認識、そういった課題が多く挙げられているようでございます。他に市長様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。須野原局長さん。敦賀市長様、お願いいたします。

河瀬敦賀市長

これは地形もありますし、敦賀の場合ですと川が、本当に奥がないものですから、よそから来ることはまずありませんし、きょうび日本人で川にものを捨てる人なんていうのは、私はあるわけがないと信じておりますので、やはりこちらですと奥の長い信濃川でありますとかいろいろつながりがある川でありますから、私どもの見る限りではやはりハングルとか結構多いんです。と言いますのは、昔はそういう流れによって文化がみんな来たのですね。私どもの地域、朝鮮半島の先には白木という地区がありますが、これは新羅という、間違いなしに朝鮮半島から流れ着いた文化、そういうものがどんどん来た地域でありますので、昔はいかだに乗れば大体敦賀辺り、あの辺りに流れ着いたという歴史の中で、特に外国からのごみが多いなということを実は私どもは実感をしてしておりますので、もちろん国の中でそういうことは当然国民が理解をしながらすることは当然であります、やはり対外国となりますと、これはもうなかなか難しいいろいろな諸問題でございますし、いろいろな国がございまして、非常にこの問題を解決するということが難しいかもしれませんが、やはりこういうことにも取り組んでいきませんと、やはりこういう漂着ごみというのは解決をしないだろうと思っておりますので、ぜひまたそういう面では私どもの地域が力を合わせてある程度の行動をとることも大事なかなというふうに思っております。

東恵子先生

ありがとうございます。各市長様からごみの問題についてお話しいただきました。私もちょっと伺うところによりますと、この漂着ごみ、拾った後の処理が大変困るといようなことも伺っております。そういったことでは先ほどご提案がありましたごみの分析も含めまして、来年の稚内で開催されます会に中間報告をしていただくような機会になって、全国発信になればと思っております。

ここでぜひ北陸地方整備局の須野原局長様より、各市が取り組んでいるこの今の環境とかごみの問題について、国として支援・方策があれば教えていただければと思っております。よろしく申し上げます。

須野原北陸地方整備局長

支援・方策ということの前に、今酒田の市長さんからありましたけれども、内陸から、特に新潟で言いますと一番分かりやすいのは、ここ一番近いのは関屋分水、もうちょっと上流に大河津分水あるんですけども、本当に水が出た後、大雨が降った後行きますと本当ものすごいですよ。発泡スチロ

ールとかぐらいだったらいいですけど、例えば車のタイヤとか、本当いろいろなものが流れて、やっぱりまさに内陸、上から本当に皆さんが海岸線だけじゃなくて、地域全体が考えていけなくちゃいけない問題だと思います。

それともう1つ、私このごみの問題、広島県にいたときに、同じようなネットワークとして「瀬戸内海の道ネットワーク」というのがあるのですけれども、そこで数年前からまさにごみを、全体で拾ったり調べたりしてしまして、多分今回各市長さんがおっしゃった1つ例えば分析するにしても、一番簡単なのは例えば場所をいくつか決めて、大体1平方メートルあたり拾ってみて、そのごみがどんなものがあるとか、それは地域によってだいぶ違っていると思いますから、そういうのも地道な分析なんかもすることも大事なのかなと思いますね。

それで、私たちが出すもの、あるいは対岸とかいろいろな所から来るごみですね。私が非常に広島で愕然としたのは、広島は非常にかきの養殖しているんですけども、かき棚のプラスチックなんか瀬戸内海全部に広がっているのですよね。要するに自分たちが出したごみ、自分たちだけじゃなくて、本当に瀬戸内海は閉鎖海域ですから、本当にそれが兵庫県であったりいろいろな所に行ったり、やっぱりそういう全体の皆さんが共通意識もってやるというのが大事なのかなとそのとき思いましたし、これは先ほど市長さんのおっしゃっている中の話と同じようで、私たちもかなりのところで責任があってそれをどうするか。それは海岸だけじゃなくて内陸も含めて、場合によってはそういう内陸の人見てもらって、小学生もいいのかもしれないけれども、そういう広い取り組みというのをやっていく中の1つとして、こういう今みたいな話をぜひやっていけたらと思います。

なかなか漂着ごみの問題、各市町村さんも含めてその処理どうするかといういろいろ大変で、海岸事業の中では補助制度とかいろいろあつたりしますが、これは1つの省庁だけではなくて、少し広めな対応、現実を評価する中で対応する国、市、県も含めてやっていくのが大事なかなと思っています。それにつまましてやっぱり現状きちんと私たちとしても調査分析するというのがまず大事なかなと思っていますけれども。

東恵子先生

今須野原局長からお話をいただきました。ここのところで一応来年のテーマも決まりました。そういった中で最後にこの港湾ネットワークを通じた地域連携とは何かという抱負などもいただければと思っております。いかがでしょうか。

横田稚内市長

ごみの問題はごみの問題として、実は似たような悩みをこれから抱えるところです。敦賀の市長さんおっしゃった、ナホトカ号の油汚染の話じゃないですが、実はロシア・サハリン州で大きなプロジェクトが進んでおまして、石油とそれから天然ガスの採掘ですよ。ご承知の方多いかと思います。今までほとんど通過をしなかった宗谷海峡をタンカー船が来年以降200回航海をすると、こういうことです。

多分、韓国あるいは新潟等々に原油を積み込んでくるだろうと思うのですけれども、これはまさに敦賀の市長さんたちが苦勞されたことが可能性としてあり得るということで、今いろいろな対策を北海道やあるいは国土交通省さんをお願いをしていますけれども、何もしなければいいですが、どんな対応をしていくかということがこれからの大きな悩みだというふうに思っています。これも港というこ

とではありませんけれども、海洋国としての、あるいは三方海に囲まれた私たちのような町にとっては、非常に大きな課題になるだろうなというふうに思っているのです。

それと、今お話をしましたサハリンのそういったプロジェクトが大きく展開をされるということで、私どもは稚内の港をこのプロジェクトにかかわりのある事業として大いに使ってほしいということで、かねてからさまざまなポットセールスを展開してきました。先ほど冒頭に新潟の市長さんが日本海の港は14%物流が増加をしたというお話でありましたけど、残念ながら北海道は取り残されていると言いますか、私どもの町もそこまでいっていません。しかし何とかそういう物流の拠点港としてもっともっと活発に利用をしてもらいたいし、またそのことが町の大きな発展につながるだろうということもあって、そういうポットセールスを繰り返してきたんですが、そういう危険さと裏腹にあるというような状況ですよ。そういうリスクというのは常に背負うのだろうと思いますが、その辺をどう解決していくかというのがこういう私たちが抱えざるを得ない課題なのかなというふうに思っています。

それともう1つ、なかなか物流が伸びないという理由、さまざまあると思うのですが、これは実は陸路のネットワークがどうなのかということとも非常に関連していると思うのです。私どもの町の現況をお話ししますと、札幌から稚内まで列車で行きますと5時間ちょっとかかります。それから高速道路ありません。空路は幸いなことに千歳、丘珠あるいは東京、名古屋、あるいは大阪関空とつながっていますけれども、北海道の中での物流のネットワークがなかなか完成をしない。そうすると完成をしないと港が効果的に利用されないということになっていくのだと思うのです。今公共事業が悪者扱いされて、高速道路なんかいらぬという都会の方々がたくさんいらっしゃいますけれども、私どもはそういう物流の拠点を生かすためにも、張り巡らされたネットワークがどうしてもやっぱり必要だと。

それからもう1つは、これはちょっと脱線しますが、医療の問題を取り上げても、高次医療を受けるために札幌に行かなきゃいけない。5時間かかるのです。5時間かかっては助かる命も助からないということにつながってまいります。今特にお医者さんが不足していますから、本市にも市立病院という病院がありますけど、なかなか医者が来ない。産婦人科医はおかげさまでいます。小児科医もいます。でも内科医含めて少ないというようなことでして、そういった意味でもやっぱりそうしたネットワーク、陸路のネットワークも、これは私たち地方にあるものの宿命として大切だと思っています。地方の格差が言われている昨今、そうしたこともやはり格差をつけないように整備をしていただくと、我々もちろんがんばりますけれども、これは北陸整備局の仕事ではありませんけれども、須野原局長にもぜひ力強いお言葉をお願いしたいなど。

実は須野原局長は前職の航空局の企画課長でいらっしゃったときに、稚内の空港、日本一の冬場の欠航率が高かったです。70%代しか運航しなかったのです。それでこれはだめだということで力をお借りして、来年から空港の延長、滑走路の延長に取り組んでいただいて、何とか実現することになりました。改めて今、しばらくぶりにお会いしましたのでお礼を申し上げたいと思いますが、本当に地方として皆さんと一緒に声をあげたいんです。東京の方とはかく公共事業はだめだと、もったいないとか無駄なことと言いますが、私たちからすると決して無駄なことだと思いません。しかも北海道は全国から比較して高速道路のネットワークは、まだ、ほとんど未完成ですので、いろいろな意味で、生命を守るということは一番尊いことだと思いますけれども、そんな意味でいろいろな意味で陸路のネットワークというのも必要だと。道路の一般財源化というのは、これはやっぱりもう少し

先に延ばしてほしいなというというのが本音でございます。どうか力を貸してください。ありがとうございますございました。

東恵子先生

ありがとうございます。最後先ほど申し上げました、多少時間がございますので、ぜひ来年に向けてのそういった環境問題、海岸の漂流ごみについてのお話を中心にお話ししていただければと思いますが、せっかくのネットワークですので、この港湾を介したということで、何かご発言ご提言があれば、せっかくの機会ですのでお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

分家射水市長

今ほど稚内の市長さん言われました、まったく私たちも同感でありまして、日本海側の全体的な物流を結局支えるとしたらやっぱり基幹的な道路でありますとか、あるいはJRでありますとか、空港でありますとか、こういったものと物流が結びつかなければ、いくら港の整備だけをしてしても全然それはもう役に立たないわけです。

ただこの間防災訓練やっていて私ども港の重大性というのを更に再認識したことがあります。このことは神戸の阪神大震災をはじめ、私どもはたまたま遭いませんでしたけれども、能登半島、それから先般の中越沖、こういったときもやっぱり物流の基本的な、例えば生命のもとである水とか食料が、やはり道路が寸断された場合には耐震の護岸になっている所から真っ先にそういうものが供給されなければ、尊い人の命さえなくなってしまうと。そう思うと我々は、今は一生懸命物流や人の流れやにぎわいを創設するためにいろいろなことをやっていますが、もっともっと大切な基本的なものをやるための港としての本来は機能がまだまだ整っていないのではないかと。そう思うと、先ほどもおっしゃったとおり、まだまだ我々やってもらいたいことがいっぱいあるわけでございますが、特に地方にとっては国の全部によるお金ならいいですけど、ほとんどが県とか市町村が負担しなければいけない問題があって、年々そのことが縮小されていて、住民のいわゆる願いと現実というのがだんだんかい離してくるということになりますと、ますます地方と都会との格差が開いてくるのではないかと思います。

そういった意味では、この港を中心とした町づくりを我々はいつも訴えているわけですが、そのことは道路網や先ほど言いましたいろいろなことと結びついて、まず最低の社会資本の整備がなされて初めて、すばらしいみなとまちづくりを、みんなに夢やロマンを与えることができるのではないかと思っています。そうすることによってはじめて、かつては日本海側が主流だったわけですから、先ほど韓国や中国大陸の文化がそのまま流れて日本に着いておったのが、今度は逆に我々のほうから日本海側みんなで協力して、対東アジアなりそういったところに向けて、今度発信していく、そのためにはお互いに手を携えてがんばって日本海側の港をきちんとしてほしいということ、やっぱり声を大にしていかななくてはならないのではないかと考えております。

東恵子先生

ありがとうございます。私たち今お話ししている中でも、大変物流という観点から道路との連携が必要だと。先ほど柳原先生のお話にも出ていましたけれども、こういった港の整備というものは、なかなか予算の関係等もありまして、連携しながら機能分担をしていくというような方向で進められて

いるように思われます。須野原局長いかがでしょうか、この辺に関して。

須野原北陸地方整備局長

はい。港について見ますと、日本海側の港、それぞれ地域の背後県というのは決して競争していません、よくよく見ると。そこのところをもう少しきちんと、私たちも含めて説明していかなくちゃいけないのかな。むしろうまく連携していただくということが、その連携するためのベースとしての各社会資本としてもたなくちゃいけない、そういうことが私は大事だと思っていて、今中でもいろいろみなさんともお話していただく中で、例えば航路を作るにしても、新しい航路を作るにしても、例えば新潟とどこかの港、ピストンでいくのであれば1つの港ですけれども、逆に物流がいくつの港乗ってワンルートです。これはもうどこのルートでもそうです。そうするとやっぱりそれぞれが連携するときは連携する。もちろんそれぞれががんばっていかなくちゃいけないところありますけれども、そういうソフト面で見れば、常にそういう意識をもつていただくということも大事なのかなと。俺の港を使っていただけじゃなくて、全体、周辺も含めてうまくネットワーク、それによって例えば週1便を2便にするとか3便にするとか、全部がやれるわけじゃありませんけれども、そういう取り組みもぜひ必要なのかなというふうに思っています。

そのために必要な、例えば1つの港が入るのが遅れたら、次の港にも影響するわけですから、そこはレベルを合わせるというような取り組みが必要なんじゃないかなということを担当なんかと話していて、そんな問題、社会資本整備も別の視点から整理する必要があるのかな。それをぜひ外に向かってやって、それが地域の経済とうまく結びつく、あるいはもちろん背後を、先程の話でもございました道路も含めて、やっぱりネットワークとしてどうするかということが大事かと思っています。そんなところをこれから取り組んでいきたいと思っているところですけど。

東恵子先生

今貴重なご意見いただきましたけれども、それでは新潟市長お願いいたします。

篠田新潟市長

じゃあ一言。今のお話本当にその通りで、私らが今富山伏木港とこれから連携しましょうというのは2つの意味があって、1つはお互いもっている後背地なんていうと怒られますけど、経済圏別々ですよ。我々やっぱり何と言っても首都圏に依存する度合いが非常に高いし、富山伏木の場合は名古屋、中京圏から、それから東海という所、これが相当強くあると思います。敦賀まで行けば完全に関西が見えてくるわけですし、そのあたりで、大変恐縮ですけども、博多北九州、ここが港として相当大きな機能をもっていますが、博多北九州がいくらがんばっても日本全体を活性化することはできないと。大変恐縮ですが我々、とりあえず本州日本海側の港ががんばって、それぞれの経済圏と結びつくということだと相当大きな経済効果が出せますし、今リダンダンシーという、いざ災害が起きたときにその代替機能どこが果たすのかということを考えると、首都圏・東海・阪神、みんな東海地震だ、東南海だ、という大きな危機を抱えているわけで、今ひずみ集中体が日本海側にあるような報道が集中的になされていますけど、これはちょっといきなりそこに今まで出ていなかったからそこへ目が向くというのはしょうがないですけども、大きな目で見れば日本列島どこでも危ないわけですので、そういう中でもここがやられたらここがちゃんと機能する。例えば中越沖地震のときに柏崎

の立ち直りが早かったのは、柏崎港が機能したからで、あれは柏崎港までやられていたら更に大変な
ことになったということがあります。

そして道路の話は、東京の人、首都圏の人は関係ないということでは全然なくて、例えば今整備さ
れている外環道、これはもう首都圏の方たちが渋滞緩和のために大変役に立つ道路であると。そうい
う恩恵を受けていることをあまり東京の人は感じないですよ。そして道路整備というと悪だとい
うような論調が通りますけれども、じゃあ今首都圏ですごく道路整備しているじゃないですかと。それ
があなたたちの暮らしやすさを支えているのですよ、ということも、我々が言うのも何か変な話かも
しれませんが、しっかりと「道路の話はひとごとじゃありませんよ」ということも訴えていきたいと
思います。

東恵子先生

ありがとうございます。いろいろ港の機能に多岐にわたりお話が出てまいりました。そういった
中で、このネットワークのもつ特徴、このネットワークのよさを生かしていくということでは、この
港の機能、物流とか生産とか、生活とかそして防災という機能面で連携を取りながら、今までになか
った価値の認め合い、活用の連携の取り合いの方向が模索されるかと思っております。

こういったご市長様がお集まりいただきまして、大変有意義なこの話し合いになり、また特に来年
稚内市で開催されるこのネットワークでは、ごみ問題、漂流ごみについての課題研究をしながら、ご
当地で発表会が行われるという、大変画期的な決議となったのではないかと思っております。

最後6時ちょっと前になっておりますが、まとめに入る前に一言ぜひとおっしゃる市長さん、ぜひ
お願いいたします。

阿部酒田市長

すみません、もう皆さん疲れているかもしれませんが、最後に。国土交通省のほうにお礼と、まだ
これからお願いということですが。今皆さんご存じのように食料自給率、我が国の食料自給率って
40%きっているのですよね。それでも港がいらないという人東京が言うんだらうと思うのですね。新
潟のような良質米の産地が、港がなくてもご飯は食べられるじゃないというのはわかるのですが、東
京の人は本気で港なんか投資する必要があるのかな、みたいなことを言ったりするのですよね。道
路も同じです。

同じようなことが、さっきのごみの話があって、自分のうちの軒先からちょっと大水が出たので流
れていっただけだよというのが、ちりも積もって河口にくるとすごいことになるわけですよ。そん
な実態というのはどうしたらいいのかなということですが、やっぱり結局港というのは何なの、海っ
て何だったっけ、我が国って海洋国家だよねというようなところを、やっぱりいろいろな人ととい
うか、数多くの国民の皆さんに理解してもらうしか、なんぼ私たちが声を大きくして、公共事業、港整
備大事よ、高速道路も大事よと言ったって、現実その場面を見ていない人になんぼ言ったってわか
らないですね。40%きったって、東京の人なんか港の整備なんかいらないとか、高速道路もなくな
って自分の所で肉でも作っている、米でも作ってればそう言ってもいいですけども、そんなことい
っさいないにもかかわらずそう言ってはばからないというのが、昨今の嘆かわしい風潮ですよ。見
てもらえない。見てもらうと言ったってどうでしょうか。何万トン岸壁の所に来て「さあ、港を見
てください」、カントリークレーン見て港を感じてくださいって言ったって、誰もそんなこと言った

ってびんと来ないのが一般の人の話だと思っております。

さてそこでなんですが、みなとオアシス、今までみなとオアシスで指定されてあんまり何もなかったんですね、何もね。だからと言って指定受けるのをやめろとかそういうこと言っているのではないですよ。ただ今、みなと振興交付金ということで、国土交通省がもっている予算の1部をソフト的な事業というか、港本来の機能から派生をした親水的な機能にも使われる交付金ができる。稚内市長の所でも使ったという話です。私の所でも使わせていただきました。

そういうことで、港に来る機会を多くの市民、県民、国民の皆さんに増やしていくことが、まどろっこしいようだけれども言われのない社会資本整備、港湾整備に対する批判めいた言葉を、少しでも理解に結び付けていく努力になるのではないかと考えております。

ちょっと上手に言いましたけれども、そういう意味ではこの交付金の創設をご英断いただいた皆さんに感謝するとともに、もっともっと充実してほしいなど。防波堤の予算削ってまでこっちのほう作ってくれということではないですが、両方充実してほしいなどということで、御礼とお願いをして終わります。

東恵子先生

よろしいでしょうか。そろそろ6時5分前ぐらいになっております。この市長様のお話を取りまとめするには大変困難ですし、今日始まる時にも大変この市長様を前にしてコーディネートの役をさせていただくことをものすごく重荷と、重責なことと思っておりました。市長様のご協力により、これからの環日本海の、また全国発信として海洋国日本としての漂流ごみの問題、これは先ほどのスライドにもありましたけれども、多くの市民参加による清掃活動が行われております。

最後になって私事になりますが、清水港で美しい、富士山の風景に自然景観に合わせて人工景観の形成を行ってまいりました。そういった清潔とか美しさというのは15年たった今、大変人の交流とにぎわいを呼んでおります。先ほど柳原様のお話ありがとうございましたけれども、ディズニーランド・ユニバーサルスタジオ、今清水港の再開発の空間が大変手狭な所でございますけれども、820万という人数を集めております。にぎわえばいいということではなく、そういった地道な活動、清掃活動、それから緑化活動、多くの市民参加が結成されて進められております。

今日の市長様のお話多々ございました。日本の港を支える地域の人たちがいる。そういった人たちに支えられて、港を知らない人たちに声を大きくして、この港なり海岸線の清掃、美しく清潔であることを一緒に活動していただくこと、またこういった取り組みに参加していただき理解していただくことを続けてまいりたいと思った次第でございます。

今日は本当につたないコーディネーター役、大変失礼いたしました。今日は来年の稚内市に向けての新しい決議がされ、次回に向けて、ますますこの環日本海みなと交流会が発展することを祈念いたしております。これで終わりにさせていただきます。